

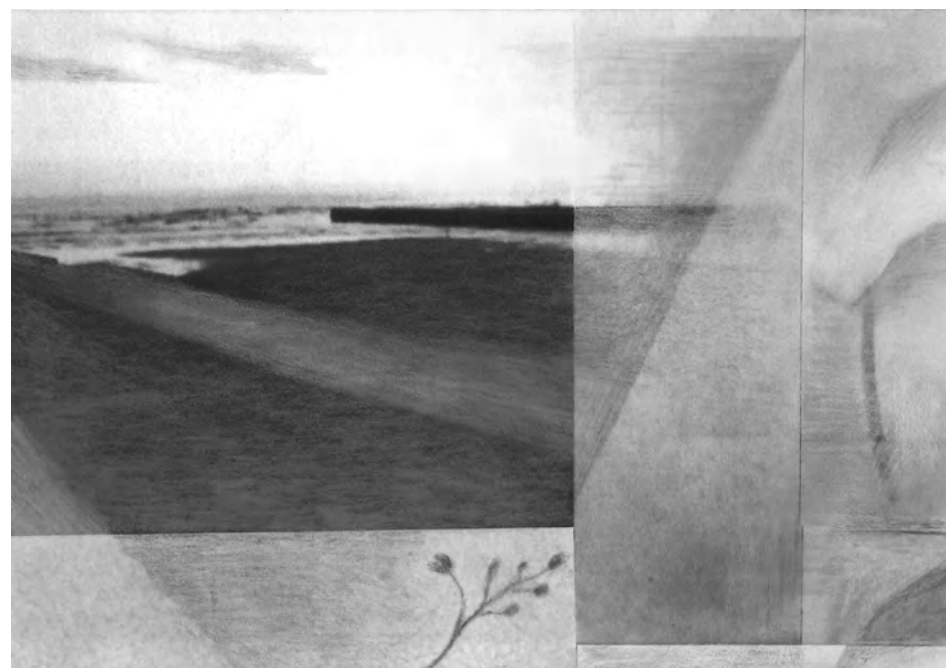
文芸ふじさわ

第 54 集

文
芸
ふ
じ
さ
わ

第
54
集

藤沢市教育委員会・（公財）藤沢市みらい創造財団



再生紙を使用しています。

表紙のことば

引地川河口

昭和28年（1953年）頃辻堂北町在住の7才の私は、大平台から引地川沿いの土手のような道を下駄を履いて、引地川河口まで歩き、市営プールや川で遊びました。

昭和2年（1927年）引地川沿いの松林から河口を歩いていた芥川龍之介は「蜃気楼」を書きました。

大正6年～12年（1917年～1923年）まで鵜沼松が岡に住んだ岸田劉生は鵜沼風景を描きました。

引地川河口近くの川沿いに、今もわずかですが松林が残っています。

絵と文 宮原青子

文芸ふじさわ

第 54 集



川柳	5
俳句	27
短歌	55
五行歌	67
現代詩	83
随筆	89
編集後記	140



「文芸ふじさわ第54集によせて」

教育長 平 岩 多恵子

「文芸ふじさわ」第54集が発行されますことを心からお祝い申し上げますとともに、大変うれしく思います。藤沢市歌の歌詞に「みなぎるは文化の光」とありますとおり、藤沢市には、文芸を愛するみなさまが、とても多くいらっしやいます。そして、日々ご自身が体験された「見たこと」「聞いたこと」「感じたこと」「思ったこと」などを文字で表現することを楽しみ、その作品を仲間とともに味わい、自分自身の表現の幅を広げています。

「文芸ふじさわ」は、文芸を愛するみなさまがどなたでも、ご自身の作品を発表することができる場であり、多くの人達に読んでいただくことで、人の和を育む場であると思っています。「俳句」「短歌」「川柳」「五行歌」「現代詩」「随筆」の中から一種目にのみ投稿することができます。ご自分の得意とするジャンルへの作品の投稿をきっかけとして、次に投稿されるときには、同じジャンルのみならず、違うジャンルにチャレンジしていただくなどの楽しみかたもあると考えています。また、作品を投稿するにあたっては、自身が書いてこられた作品の中から、「これぞ」と思う作品を選択されているのではないでしょうか。一人一人の思いの詰まった作品が「文芸ふじさわ」としてまとめられ、市民のみなさまに広がっていくこととなります。読み手としては、作品を楽しむことはもちろんのこと、知人の作品を探したり、作品を通して知人の新たな一面を発見するなどの楽しみかたもあると思っています。また、作品で出会った人と実際に会おう機会があったら素敵だとも思っています。

たくさん寄せられる作品を編集委員のみなさまが、作品の価値が十分に伝わるように編集し、3月に発刊できるように努めてくださっています。発刊を続けられるのは、作品を投稿してくださるみなさまと編集委員のご尽力によるものだと、厚く感謝申し上げます。

これからも、文芸を愛するみなさまが、精力的に作品をつくり、意欲的に投稿し、「文芸ふじさわ」を盛り上げてくださるとともに、文芸誌としての「文芸ふじさわ」が市民のみなさまに愛され続けることを願っています。

